

2013年度 代表事業①

事業名

しずおか未来学園2013

屋久島徳育キャンプ～つながり、続いていくぼくらの道～

委員会

「和の精神」育む委員会

委員長：海野 健多郎

副委員長：小野田 健太郎

副委員長：杉山 雄右

幹事：小澤 良恒



事業趣旨要約

急速なグローバル化や情報化、価値観の多様化に伴う生活様式の変化は、地域での共同的な活動よりも個人を優先させる風潮を広げ、人と人との「つながり」がより希薄になり日本人としての誇りが失われつつあるため、このような時代を生きていくためには、大切に受け継がれ、世界から称賛を得た「和の精神」を伝え、日本人の誇れる道徳心を青少年期にしっかりと育むことが重要だと考えた。

本事業「ロゲイニング」では、子どもたちが利己主義を抑制してルールを守り、社会規範や善悪を判断する力を身につける。「縄文杉」を訪ねることで、豊かな自然の機微を感じ取り「和の精神」を呼び覚ます。「自炊・テント生活」において、日常では体験できないような困難な状況の中だからこそ、仲間を思いやり助け合いながら物事を遂行し、人と人との「つながり」を尊び、共助しあう道徳心を学ぶ。

またそれらの成果を、卒業式で発表することにより習熟の域に達する。全事業を通じ、今後の人生においてのゆらくことのない行動基準となる「和の精神」と道徳心を体得し、日本人としての強い誇りを持つ。そして、子どもたちが、世界を相手に戦う場面においても臆することなく縦会抜き、公の利益に貢献できる人材となることが、日本国内のみならず国際社会においても「輝きを放つまち静岡」の創造につながる。

背景

- ・価値観の多様化に伴う生活様式の変化により、利己主義が蔓延している。
- ・人と人との「つながり」がより希薄になり日本人としての誇りや道徳心が、失われつつある。
- ・日本古来から大切に受け継がれ、世界から称賛を得た「和の精神」を感じ、日本人の誇れる道徳心をしっかりと育むことが重要。

効果

- ・自らの誇り発見委員会と合同で、事業を行うことにより、より「しずおか未来学園」の魅力を広げ、一般に伝えることができる。
- ・屋久島青年会議所の協力は、JCならではの協体制度であり、安房公民館での異例の宿泊や現地でのスムーズな運営が可能となる。
- ・屋久島児童との交流は、参加児童の道徳心を育む効果がある。
- ・FDAの協力は、登録費を抑える効果がある。
- ・「和の精神」を呼び覚まし道徳心を習熟し、今後の人生においての行動基準を持ち、自信を持って堂々と生き抜く。
- ・日本人としての強い誇りを持ち、世界を相手に戦う場面においても臆することなく戦い抜き、公の利益に貢献できる人材となる。

事業内容

- ・児童募集期間（4月中旬から）
- ・メンバー向け説明会（6月25日） 商工会議所
- ・入学式、ロゲイニング及び保護者説明会（6月29日） 清水テルサ 及び その周辺
- ・屋久島徳育キャンプ（8月22日から8月25日） 鹿児島県熊毛郡屋久島町
- ・卒業式、事前準備含む（9月20日から9月28日） グランシップ（準備は清水テルサにて）

事業の流れ・目的

- 【入学式・ロゲイニング】
6月29日 ロゲイニングを行うことで、参加児童のアイスブレイキング、社会規範や善悪を判断する力を身につけ、道徳心を養う。
- 【屋久島徳育キャンプ】
8月22日 ①往復11時間にとび集団での公共交通機関による移動することで、社会規範や善悪を判断する力を身につける。道徳心を養う。 ②宿泊（民宿へ）、
8月23日 ①縄文杉トレッキングを行うことで、豊かな自然の機微を感じ取り、日本人なら誰しも宿している日本人としての誇りである「和の精神」を 呼び覚ます。そして、日常では体験できないような困難な状況の中だからこそ、仲間を思いやり、助け合いながら物事を遂行する強固な「つながり」の大切さを体得し道徳心を学ぶことができる。②テント生活、自炊を行うことで、日常では体験できないような困難な状況の中だからこそ、仲間を思いやり、助け合いながら物事を遂行する強固な「つながり」の大切さを体得し道徳心を学ぶ。そして、物質的に豊かなくとも心は満たされることを知ること、日本人なら誰しも宿している日本人としての誇りである「和の精神」を呼び覚ます。
8月24日 ①屋久島児童とのふれあい遊遊びを行うことで、人と人との「つながり」を尊び、共助し、協調を重んじる「和の精神」を感じる。 【変更】当日天候の為、場所が変更となった。 ②テント生活、自炊 【変更】当日天候の為、コテージに宿泊となった。
8月25日 ①高速船で種子島へ、FDAチャーター便で静岡へ
9月28日 ①「合同卒業式」事前準備を行うことで、習得した道徳心と感じた「和の精神」を正確に整理することができる。 そして、「合同卒業式」を行うことで、大勢の他者の前で発表場面に備えて、保護者が、今後の子どもの家庭学習を促すこととなる。

所見

事業当日は、概ね天候にも恵まれ、今事業のメインイベントである「縄文登山も前日からの体調不良者1名を除き、児童、メンバーともに全員が11時間・2.2kmを完歩した。平日を含む3泊4日、高額な登録費にも関わらず、委員会メンバーとLOMメンバー合計で、44名の参加を頂きました。皆様の協力のおかげで、参加児童は、昔からある日本人としての大切な心「和の精神」と協調する「道徳心」を学んだ。卒業準備で、一か月ぶりに再会した児童たちの姿と卒業式の発表を見て、当事業の効果を確認した。当事業に参加した児童たちが大人になった時に、日本人としての誇りを持ち、世界を相手に戦う場面においても臆することなく戦い抜き、公の利益に貢献できる人材となることを願う。

年間活動に対する所見
「和の精神」育む委員会では、近年の急速なグローバル化や情報化、価値観の多様化に伴う生活様式の変化は、地域での共同的な活動よりも個人を優先させる風潮を広げ、人と人との「つながり」がより希薄になり日本人としての誇りが失われつつあるため、このような時代を生きていくためには、大切に受け継がれ、世界から称賛を得た「和の精神」を伝え、日本人の誇れる道徳心を青少年期にしっかりと育むことが重要だと考え、次の世代を担う子どもたちが仲間たちとの馴れ合いではなく、しっかりと自己を確立しながらも社会性を持ち、互いが互いに尊重し助け合い行動し生活していく日本古来の「和の精神」から普遍的な道徳心を学び養えるよう努めた。

8月22日～8月25日に鹿児島県熊毛郡屋久島町で行われた「未来学園2013 屋久島徳育キャンプ～つながり、続いていくぼくらの道～」を行った。 事業当日は、概ね天候にも恵まれ、今事業のメインイベントである「縄文登山も前日からの体調不良者1名を除き、児童、メンバーともに全員が11時間・2.2kmを完歩した。平日を含む3泊4日、高額な登録費にも関わらず、委員会メンバーとLOMメンバー合計で、44名の参加を頂いた。皆様の協力のおかげで、未来を担う子どもたちが、利己主義を抑制してルールを守ること、社会規範や善悪を判断する力を身につけた。また人と人との「つながり」を尊び、共助し、調和を重んじる「和の精神」を感じることで、日常では体験できないような困難な状況の中でも、仲間を思いやり、助け合いながら物事を遂行する強固な「つながり」の大切さを体得した。また、自然豊かな島で、日本古来の生活の文化や豊かな自然の機微を感じ取り、物質的に豊かなくとも心は満たされることを知ること、日本人なら誰しも宿している日本人としての誇りである「和の精神」を呼び覚まし、自らの心の拠りどころとなる道徳心を養った。事業を子どもたちと一緒に行動することで、メンバー自身は、協調し助け合う「和の精神」を心得るとともに、子どもたちへの道徳の教え方を学んだ。子どもたちは、「和の精神」を学び道徳心を習熟することで、今後の人生においての行動基準を持ち、自信を持って堂々と生き抜いてくれることであろう。そして、子どもたちは、日本人としての強い誇りを持ち、世界を相手に戦う場面においても臆することなく戦い抜き、公の利益に貢献できる人材となることが、日本国内のみならず国際社会においても「輝きを放つまち静岡」の創造につながると確認した。

目的

- ・しっかりと自己を確立しながらも社会性を持つ。
- ・互いが互いに尊重し助け合い行動し生活していく道徳心を学ぶ。
- ・日本古来の「和の精神」を呼び覚ます。
- ・協調し助け合う「和の精神」を心得るとともに、子どもたちへの道徳の教え方を学ぶため。

事業概要

日時場所：2013年6月29日から9月28日まで
鹿児島県熊毛郡屋久島町、商工会議所、清水テルサ及びその周辺、グランシップ
参加人数：静岡市内の児童（小学4年生から6年生） 48名、静岡ICメンバー 44人参加
事業総額：3,884,581円



担当委員長Q&A

01 未来学園を担当し「屋久島徳育キャンプ」を選定するきっかけや理由など教えてください。

「和の精神」を子供たちに感じ学んでもらうために、豊かな自然を感じてもらう未来学園を考えた。そこでまずは4つの世界自然遺産の中から選ぶところで、「屋久島」が選ばれた。豊かな自然を感じてもらうことで日本古来からある自然との共和「和の精神」を取り戻す、そして、ロゲイニング、テントでの生活を通し道徳心を研鑽する未来学園事業を行うことになった。

02 事業をスタート時に未来学園では初の遠方ということで苦労した点を教えてください。

FDAとのチャーター便交渉は、上程スケジュールなどの弊害がありとてもプレッシャーがあった。特に帰りの飛行機を確保するのに、まずは、屋久島から種子島へ移動、そして種子島から飛行機チャーター便で静岡空港まで飛ぶという「世界に一つだけ」の交通手段をこの未来学園の為に作り上げたことに大変な苦労をついやした。

03 時間的な苦労もたくさんあったと思いますが、どれぐらいの会議や現調を重ねましたか。

まず、現地調査に2回行った。(上程前の下見として1回、審議通過後に再度現地調査に行った。)
それぞれの会議に50回くらい時間を費やしている。(理事会8回、室会議10回、スタッフ会議20回 委員会10回)

04 子供たちを屋久島に連れて行くことでどのような気づき・学びを持ち帰ってもらいたかったのですか？

豊かな自然の機微に接し、日本古来から伝わる「和の精神」を感じ、日常では体験できない困難な状況だからこそ、仲間を思いやり、助け合う道徳心を育ててもらいたかった。

05 長時間の移動や知らない街での長期の合宿など子供たちは緊張していたかと思えます。特に気を付けていた点など教えてください。

緊張どころか興味のあることがたくさんありすぎて、はしゃぎ過ぎていたくらいであった。そのため、興奮しすぎた子供たちを制御することに専念していた。

06 子供たちの成長・変化をみて委員会メンバーの意識はどのように変わっていききましたか？

次代を担う子どもたちに、道徳心を教えることの大切さを知った。そして未来という子ども達への投資の必要性を改めて感じ、地域の大人として誇りに思い、未来学園や静岡青年会議所の素晴らしいさを改めて感じた。

取材全体としてのまとめ・感想

未来学園事業を通し、メンバーは子ども達に道徳心や和の心を伝えていたが、その事業を通し、メンバーたちも子ども達への教育の大切さ、未来という子ども達への投資の重要性を学ぶこととなった。そのような場を毎年提供する未来学園事業や静岡JC活動の素晴らしいさを改めて感じた。取材を通し、参加メンバーだけが持つ、「一つの事業を通して得る共有の達成感」があることに気付かされた。参加メンバーでなければ体験できないことがあり、それは参加したメンバーだからこそ同じ気持ちをもって事業を終えることができるということを教えられ、未来学園事業は直接参加すべき事業だと感じた。

07 今回の事業に参加してくれた子供たちにどのような大人になってほしいと思いますか？

未来学園で学んだ道徳心と和の精神を今後の抛りどころにして、世界の大舞台で活躍する人材になってほしい。

08 子ども達の引率での苦労とそこから得た成果にどのようなものがございましたか。

苦労した点はあまり感じず、事業全体が無事終わり、メンバーに対する感謝の気持ちでいっぱいになった。

09 今現在屋久島徳育キャンプに参加された子ども達や現地機関との交流はございますか。

保護者から、「今年は屋久島キャンプあるのですか？」の声が多数ある。また、現地で連携した屋久島JCとは現在も交流がある。屋久島JCの理事長もプライベートで静岡市に遊びに来てくれたり、屋久島JCが活動するにあたり、未来学園の上程書や事業内容を参考にしているとの聞き、日本JCの一員として繋がりが感じられた。

10 同行で行った事でのメリットや苦労した点などお聞かせください。

合同例会をやることが決まっていたので、密に連携しながら未来学園事業を行っていった。同室としての交流が盛んに行われ、その結果交友が深まり、良い意味での刺激になり切磋琢磨できた。

11 事業費として約300万円かかりました。予算を取るうえでの苦労した点は？

FDAとの交渉を重ねる中で、破格で交渉成立させていただいた。また細かい点では、事前に現地のカレー食材、BBQ食材の予算取りで苦労した。3ヶ月前に食材の値段を確定させることに物理上の壁を感じた。



取材前後での特に気付いた点

遠方の屋久島へ行く未来学園事業ということで子ども達も緊張し、同行したメンバーも不安があったと思われたが実際はそうではなかった。子ども達は生き生きとし、見るものすべてに興味を持っていた様子であった。メンバーも不安を感じるよりもその子ども達の元気に圧倒されていたとのこと。参加メンバー全員が事業を成し遂げた達成感でいっぱいになり、誇りに感じてくれた。そして、委員長自身も苦労というよりも感謝の気持ちでいっぱいであったとのことでした。